

第2回まちあるき（臨港貨物線コース）
東区の産業発展に寄与した海・川の物流と鉄道貨物という物流交通手段の歴史を学ぶ
参加レポート

開志専門職大学 劍持真心

私は、このたび令和7年10月11日（土）新潟市「東区E産探求プロジェクト事業」として開催された、「第2回まちあるき（臨港貨物線コース）」に参加しました。

今回は実際にまちあるきに参加して、感じたこと、気づいたことを記事としてレポートします。

まちあるき企画について

「まちあるき」は東区歴史サークル「大形ちいき楽会」ガイドのお話を聞きながら、一緒に東区を歩き、歴史を学ぶイベントです。

今回のルートは、東区プラザ（東区役所）（集合）→【バス（6分）】→焼島駅→焼島地蔵尊→【バス（5分）】→臨港埠頭（施設見学）→【バス（10分）】→東新潟港駅（施設見学）→新潟鐵工所跡地→【バス（10分）】→東区プラザ（東区役所）（解散）という流れでした。当日は天候に不安があったものの、無事悪化することもなくとても歩きやすい気温でした。

今回特に印象に残ったところをいくつか紹介します。

- ① 焼島駅（やけじまえき）…今年で開業101年目を迎え、新潟貨物ターミナル駅間を貨物列車が1日2往復運行しています。駅から北越コーポレーション新潟工場へ専用線が伸びており、焼島駅では同工場で生産された紙製品の発送がほとんどを占め、焼島駅から関東・関西方面に発送されています。トラックで運ぶより、列車で運ぶ方がCO₂を1/11に削減することができ、環境にも優しいことを知りました。駅長がかぶっていたヘルメットには赤いラインが引いてあり、遠くから見ても一目でわかりやすいように工夫されていました。駅員の役割によって異なった服装だったので、駅を利用する際はそういったところにも目を向けてみてください。特に、驚いたところは線路の切り替え作業を手作業で行っていたところです。勝手に、なにかボタンを押して切り替わるものだと思っていたので、すごく重たそうに見え、手作業で行うところは、少なくなってきたので貴重な風景を見ることが出来ました。



(写真左：焼島駅前を通過する貨物列車、右：焼島駅)

② 臨港埠頭（りんこうふとう）…新潟は港町というイメージはお持ちですか？実際、新潟市東区に住んでいる参加者の半数はそのイメージを持っていました。しかし、私は大学進学で新潟に来て4年目ですが新潟市は港町というイメージが全くありませんでした。そこでまちあるきに参加して、臨港埠頭が日本で唯一の私有港湾であることを知り、普段立ち入れないところに入れたのがすごく貴重な経験になりました。ちょうど貿易船が来ていて荷物の積み下ろし作業をしているところでした。新潟では欠かせない、道路に撒く凍結防止剤が輸入されていて、その量なんと5,000t！1袋1tずつの袋に分けられていて、1日1,200tずつ積み下ろされるそうです。また、倉庫の中も見学させていただき、驚いたことは、サッカーコート約1面分の大きさの倉庫の中に、北越コーポレーションの紙類が2,500t、他にも普段利用しているお店のパッケージに使われる紙類が保管されていたことです。

※写真については、所有者以外のものもあるため撮影NGでしたが、実際の迫力を目で見たい方はぜひまちあるきに参加してみてください！

※私有港湾…国や自治体の管理する港湾とは異なり、民間企業が管理する港湾のことを指します。株式会社リンコーポレーションが私有する新潟西港の一部が日本で唯一の私有港湾です。

まちあるきに参加してみて

私は、第1回に引き続き2回目の参加でした。第1回は歴史名所をたくさん巡りましたが、第2回では、駅や港など普段立ち入れないような場所に行くことができ、新潟県出身ではない（山形県鶴岡市出身）私にとって、東区を知るとてもいい機会になりました。きっと

これまで学んだ東区のこと以外にももっと東区の魅力も隠れていることでしょう！新潟市東区の産業が全国にもたらしている影響がどれほどすごいかを目で見ることが出来てとても楽しいまちあるきとなりました！

最後まで読んでいただきありがとうございました！